

路線バス代替交通運行事業について

令和7年10月
大分市地域公共交通協議会

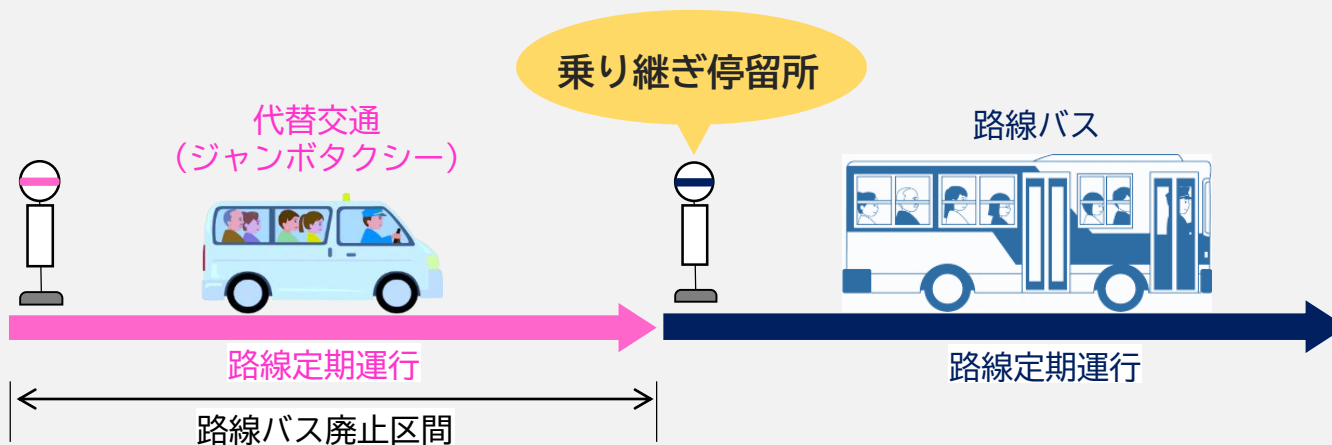
事業概要

路線バスの一部ルートが休廃止された野津原、滝尾、八幡の市内3地域において、通学・通勤等の利用ニーズに対応した移動手段を確保するため、最寄りの路線バスに接続するようジャンボタクシー（定員9名）等による路線バス代替交通を運行している。

- **運行開始** 令和2年10月1日 野津原地域、滝尾地域
令和6年10月1日 八幡地域
- **運行形態** 路線定期運行
- **運行時刻** 路線バスと乗継利用が可能な運行ダイヤ
- **運賃等** 廃止前の路線バスを基準とし、乗車区間に応じて設定
路線バスと乗り継いだ場合は、代替交通の初乗り運賃180円を割引
長寿応援バス乗車証の提示で1回180円（路線バスと乗り継いだ場合、代替交通は0円）
- **路線等** 路線、停留所については休廃止前の路線バスを基準とする。
交通事業者、地方運輸支局長、住民等で構成される大分市地域公共交通会議で運行計画を策定



運行概略図



路線図（大分市地域公共交通ネットワーク図）

令和 7年 4月現在

R6.10.1～

やはたコミュニティバス
(八幡地域)

平日24便・**土日祝13便**

※一部区間で電話予約によるデマンド
運行を実施（平日8便、土日祝6便）

R2.10.1～

たきおコミュニティバス
(滝尾地域)

平日15便・**土曜11便・日祝11便**

R2.10.1～

のつはるコミュニティバス
(野津原地域)

平日 26便・**土曜 11便・日祝 10便**

※R7.4.1より、一部区間で電話予約によるデマンド運行を実施（平日5便、土曜4便、日祝4便）

凡 例

- ふれあい交通
- 路線バス代替交通
- 大分きかんバス
- 路線バス
- 鉄道
- 高速道路

利用状況（令和6年度実績）

- 年間利用者数は、野津原地域が6,353人、滝尾地域が2,262人であり、地域で利用状況が大きく異なっている。八幡地域は、6ヵ月間の実績で5,712人であった。
- 平日1便あたりの平均利用者数は、野津原地域、滝尾地域ともに1人未満であり、滝尾地域は大きく下回っている。八幡地域は、6ヵ月間の実績では1.36人/便であった。
- なお、野津原地域と八幡地域では、沿線校区の児童や生徒が通学で利用している。
（野津原中学校…生徒2名、八幡小学校…児童4名）

地域	野津原	滝尾	八幡 (R6.10.1～R7.3.31)
年間利用者数	6,353人	2,262人	5,712人 ※6ヵ月間
平日1日あたりの平均利用者数	23.4人/日	7.5人/日	38.6人/日 ※6ヵ月間
平日1便あたりの平均利用者数	0.84人/便	0.34人/便	1.36人/便 ※6ヵ月間
参考 ・ 接続する路線バス ・ 平日1日の運行便数 ・ 運行委託料（運賃収入差引後） ・ 沿線校区人口（R7年3月末時点）	大分バス(株) 野津原線 26便/日 36,409千円 3,857人（野津原小学校区）	大分バス(株) 羽田循環線 19便/日 24,848千円 5,456人（森岡小学校区）	大分交通(株) 高崎線 29便/日 9,556千円 ※6ヵ月間 3,943人（八幡小学校区）

事業周知や利用促進に向けた取組（令和6年度実績）

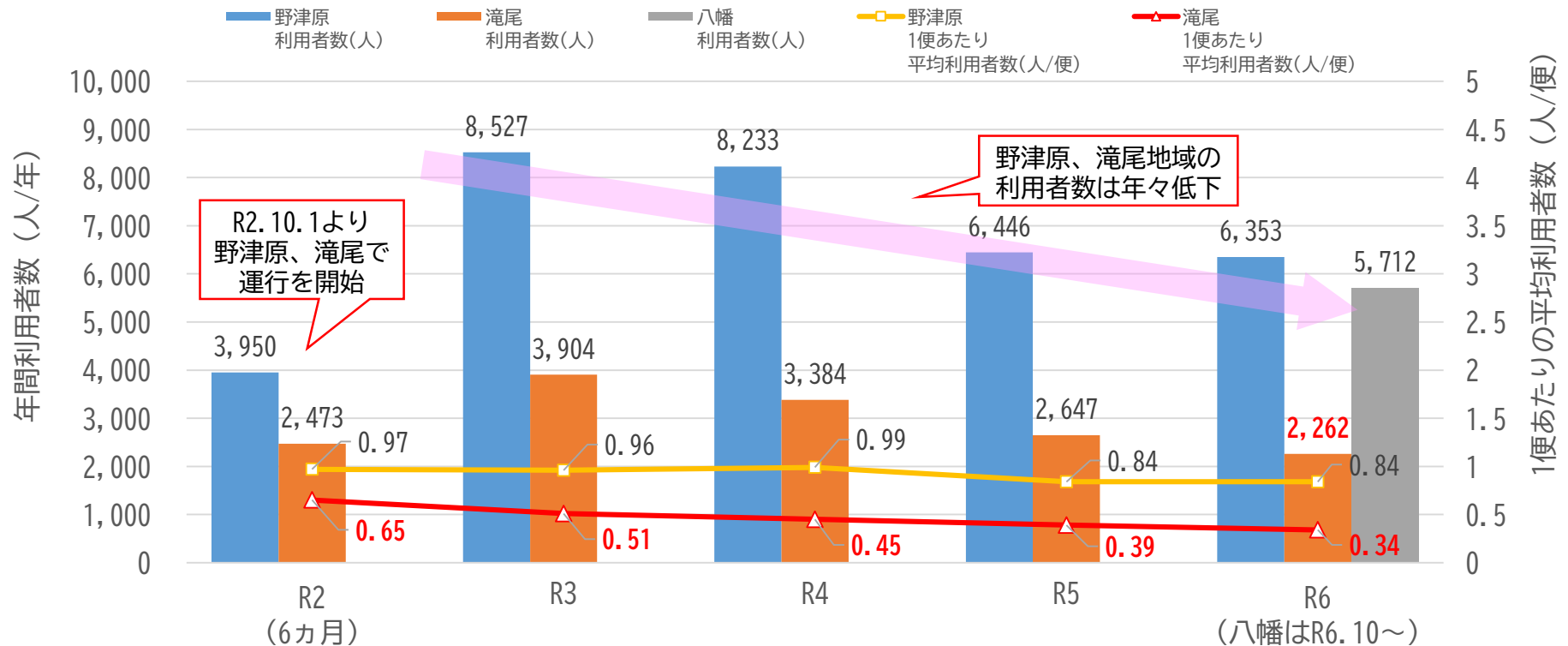
- 例年、4月に沿線地域の全世帯に時刻表を配布し、3ヵ月に1回、沿線地域の自治区に利用実績をお知らせするとともに、利用者アンケートや地域検討会により利用ニーズの把握に努めている。
- 野津原中学校、八幡小学校に聞き取りを行い、**生徒・児童の通学利用**の状況や、登下校時間帯の運行時刻に対する要望等を把握し、運行計画に反映している。
- なお、八幡地域は、令和6年10月1日の運行開始に向けて実施した住民説明会等の実績である。

取組内容	対象	野津原	滝尾	八幡 (運行開始に向けた取組)
時刻表の配布	沿線地域の全世帯	4月	4月	10月 (運行開始時)
通学利用の把握 (学校に聞き取り)	野津原中学校、八幡小学校	5月	-	6月～9月
利用実績のお知らせ	沿線地域の自治区	3ヵ月に1回	3ヵ月に1回	年度末に1回 (令和7年3月)
利用者アンケート	利用者(車内等)	7月	7月	12月
説明会の開催	沿線地域の自治区	11月、1月 (計17回、116名参加)	11月 (計2回、11名参加)	5月～7月 (計11回、282名参加)

課題① 年間利用者数の減少

- 令和3年度以降、野津原地域、滝尾地域ともに利用者数は減少している。
- 特に、**滝尾地域**の令和6年度実績は**2,262人**で、6ヵ月間の実施となった令和2年度実績2,473人を**下回る**結果となった。
- 滝尾地域の**1便あたりの平均利用者数**は、運行開始当初より「1人」を大きく下回っており、令和6年度実績は**0.34人**で令和2年度実績0.65人からおおよそ半減している。

利用状況（年間利用者数・1便あたりの平均利用者数）

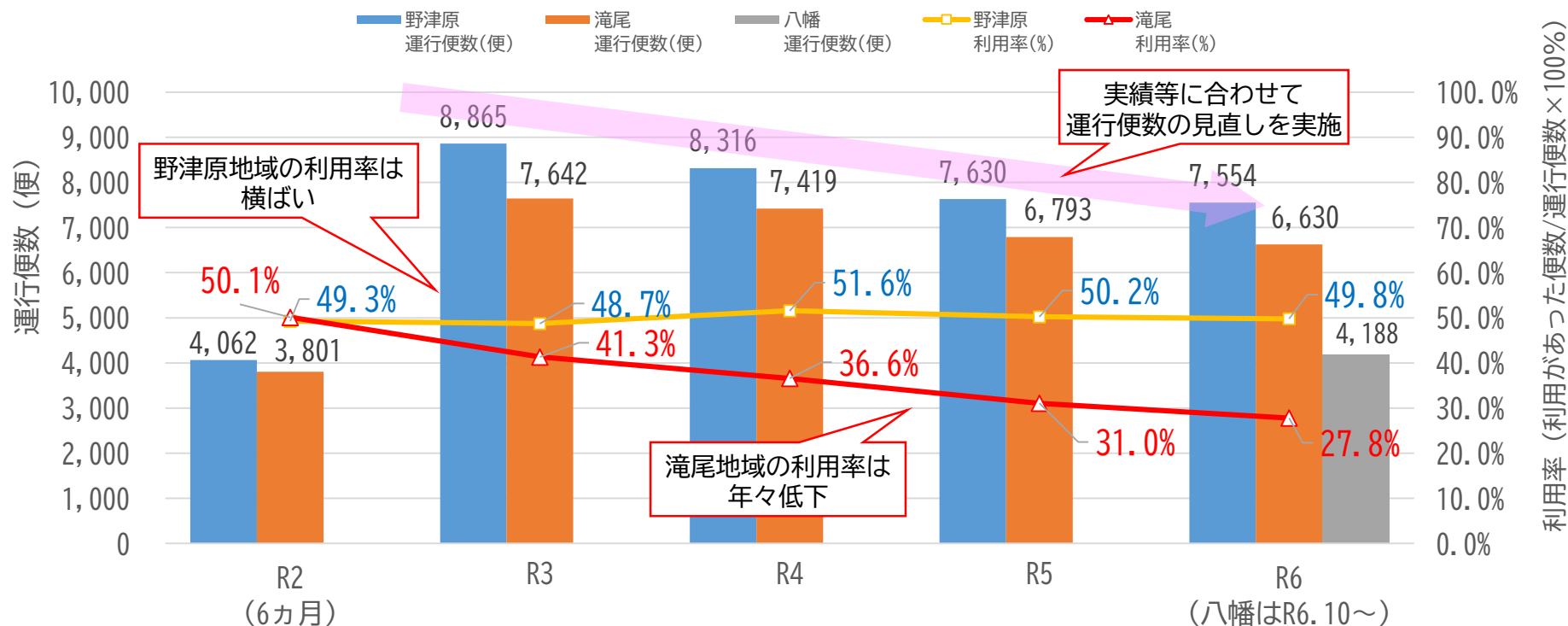


課題② 利用率の低さ

$$\text{利用率(\%)} = \text{利用があった便数} / \text{年間運行便数} \times 100\%$$

- 令和2年度当初、利用率は野津原地域、滝尾地域ともに約50%であったが、**滝尾地域は年々減少**し、令和6年度実績では**27.8%**まで減少し**30%を下回っている**。
- 毎年度、アンケートや地域検討会により利用ニーズを把握し、実績等に合わせて運行時刻や運行便数等の見直しを行っているもの利用率の改善は見られない。
- なお、八幡地域は、令和7年3月までの6ヵ月間で利用率は58.1%であった。

運行便数および利用率



課題③ 事業費および一般財源の増加

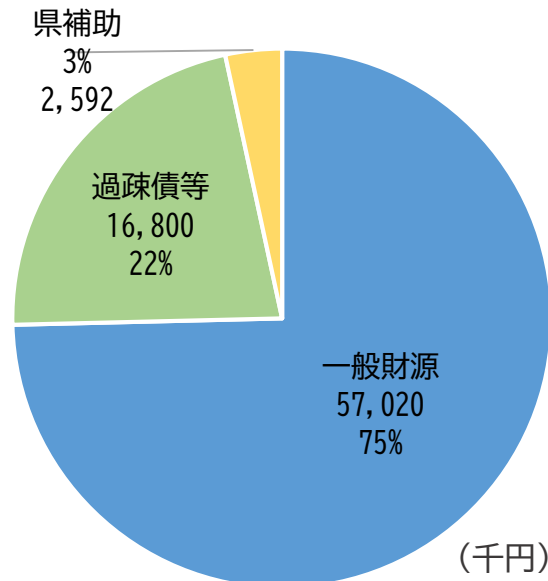
- 令和6年10月より、運行地域が野津原、滝尾、八幡の3地域になり**事業費が増大**している。
- 利用実績等に合わせて運行時刻や運行便数等の見直しを行っているものの、人件費や燃料費等の運行経費は増加傾向にある。
- 予算財源の一部に、県補助や地方債（過疎債・一般事業債）を充当しているが、**令和8年度に過疎債が終了**することから、今後、**一般財源の増加**が懸念される。

【各年度の事業費】

(千円)

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業費	38,490	67,090	66,280	63,712	76,412
備考	1野津原・滝尾の2地域（6ヵ月）	野津原・滝尾の2地域（12ヵ月）			10月より八幡地域で運行を開始

【令和6年度 事業費構成】



事業見直しの方向性

- 利用者は年々減少しており、特に滝尾地域では、平日1便あたりの平均利用者数は「1人」を大きく下回っており、令和6年度実績は0.34人/便で運行開始当初から半減している。【課題①】
- 利用率（運行に対する利用の割合）は低迷している。特に、滝尾地域では利用率が年々低下しており、令和6年度実績は27.8%で30%を下回っている。【課題②】
- 令和8年度に過疎債が終了し、今後、事業費の一般財源が増加することが懸念される。令和6年度実績では一般財源が57,020千円で、事業費76,412千円の約75%を占めている。【課題③】



通勤・通学など日常生活の移動を支えるため利便性を確保しつつ、
本事業がより効果的・効率的となるよう事業の見直しを行う

《見直しの方向性》

- 利用実績等に合わせた運行時刻、運行便数の見直し
- 利用が少ない区間や時間帯では電話予約に応じるデマンド運行の実施
- 滝尾地域は乗合タクシー「ふれあい交通」への移行を検討

今後の取組

- 野津原地域、八幡地域では、地元の要望や通学ニーズ、利用実績等に基づいて運行時刻や運行便数を見直すとともに、一部便でのデマンド運行を継続する。
- 滝尾地域では、本年度より、**乗合タクシー「ふれあい交通」への移行**について地元と検討を行い、**令和8年度からの運行開始**を目指す。(路線バス代替交通は休止)

地域	令和 7年度	令和 8年度 (予定)
野津原 ・ 八幡	- 通学ニーズや実績等に基づく運行便数等の見直し - 一部の便でデマンド運行を実施(野津原地域はR7.4.1より導入) - 停留所の新設及び廃止(八幡地域)	引き続き、通学ニーズや利用実績等に基づき、 運行時刻や運行便数等の見直し を行うとともに、 一部の便でデマンド運行を継続
滝尾	4月1日より、庄の原佐野線(下郡工区)道路工事に伴う路線バスの迂回運行に合わせて、路線バスとの乗り継ぎ停留所を「大分こども病院前」に変更し運行便数を調整 ※迂回運行が解除後、乗り継ぎ場所を「滝尾校区公民館」に戻し再度運行便数を調整 「ふれあい交通」への移行について地元(主に曲、芳河原)と検討し、令和8年度からの運行開始を目指す。	「ふれあい交通」の運行開始(4月1日～予定) 【事業概要】 - 電話予約に応じて最寄りの路線バス停留所まで運行する乗合タクシー(R7.4時点 市内33ルート) - バス停から500m以上離れた地域が対象 - ルートごとの登録者数に応じて週6便～20便 - 利用料金200円/回(長寿応援バス乗車証の提示で180円/回、小学生以下および障がい者は半額)  ふれあい交通 乗車状況